

JAIST NOW No.23

目次 JAIST NOW No.23

特集1

「多彩なキャリアで 科学と社会をつなぐ」

副学長(総合戦略担当)・教授 小泉 周

特集2

「JAIST変人ラジオ」

06—JAIST HOT NEWS

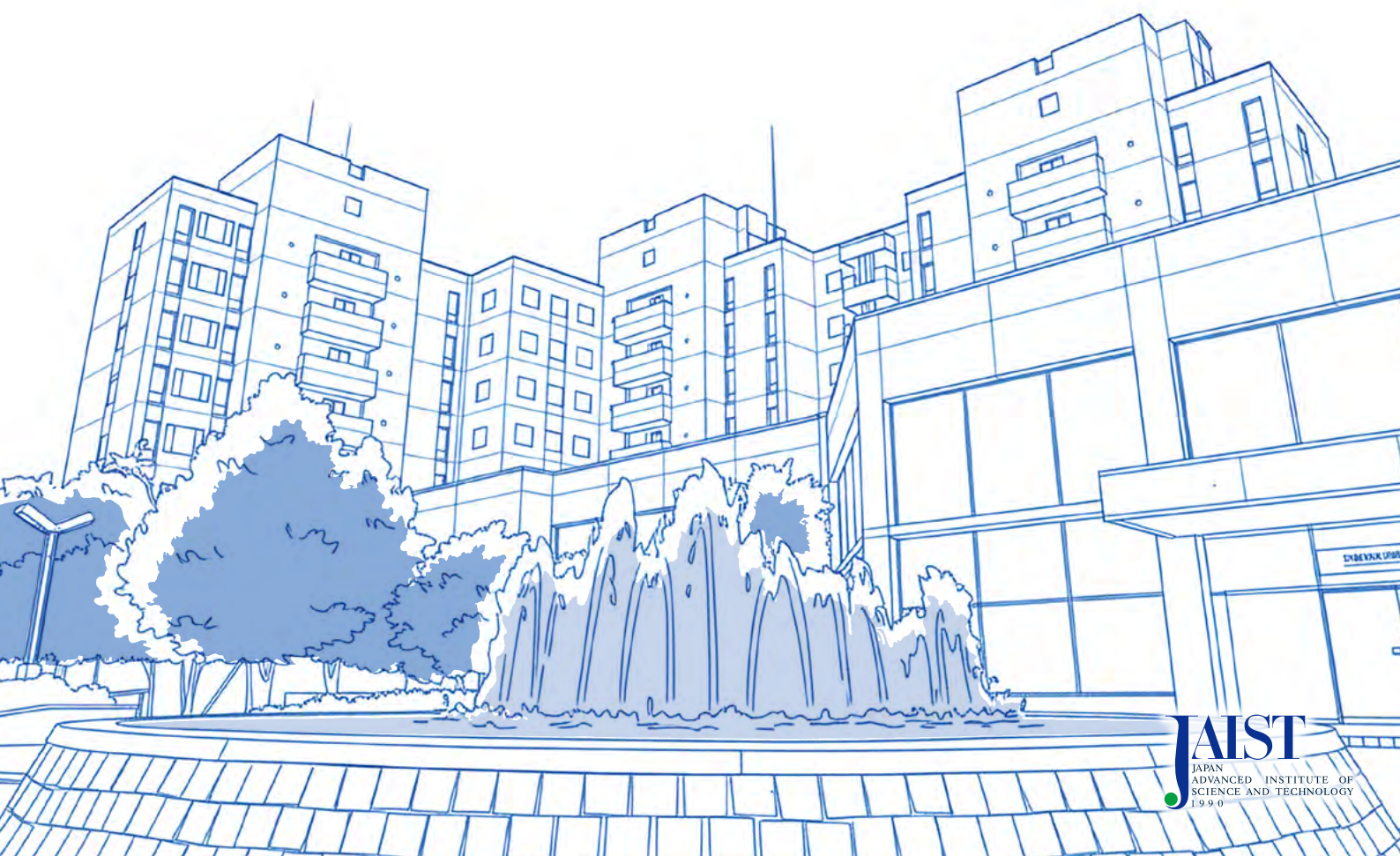
08—JAIST PRESS TOPICS

09—受賞者紹介

10—JAIST同窓会

11—活躍する修了生

12—JAIST INFORMATION



多彩なキャリアで 科学と社会をつなぐ

小泉 周 Koizumi Amane

1997年慶応義塾大学医学部卒業、医師、医学博士。同大生理学教室(金子章道・教授=当時)で、電気生理学と網膜視覚生理学の基礎を学ぶ。2002年米ハーバード大学医学部・マサチューセッツ総合病院・ハワード・ヒューズ医学研究所のリチャード・マスランド教授に師事。07年10月、自然科学研究機構生理学研究所の広報展開推進室准教授に。同研究所・機能協関部門准教授併任、総合研究大学院大学・生理学専攻准教授も兼任。09年8月から文部科学省研究振興局学術調査官(非常勤)。12年5月からは、JST科学コミュニケーションフェローも。13年10月より、自然科学研究機構研究力強化推進本部特任教授。25年4月より、北陸先端科学技術大学院大学副学長・教授。02-06年日本生理学会の常任幹事など学会の役職多数。10年、文部科学大臣表彰(科学技術賞・理解増進部門)受賞。現在、Times Higher Education世界大学ランキング国際アドバイザリーボードメンバーなどにも従事。



総合戦略担当副学長として 小泉 周先生をお迎えしました。

令和7年4月に総合戦略担当の副学長として着任された小泉 周(こいずみ あまね)先生は、慶応義塾大学で医学の道を歩み始め、ハーバード大学医学部でキャリアを積み、自然科学研究機構、文部科学省、科学技術振興機構(JST)

では科学コミュニケーションにも携わるなど、そのご経歴はまさに多彩。医師・研究者としての豊富な経験に加え、最先端の研究に取り組みながら科学の本質を深く見つめ、研究の魅力をわかりやすく伝える、科学と社会の架け

橋として活躍されてきました。そんな小泉先生が、本学にどのような視点と戦略をもたらしてくださるのか——今後の展開に、大きな期待が寄せられています。

子どもや家族と過ごす時間を大切にしています



小泉 周先生に 一問一答!

01 こどもの頃の夢はなんでしたか?

はっきりとは覚えていませんが、小学生のころから「世の中の役に立ちたい」と思っていた記憶があります。

02 ご自身の性格を一言で表すと?

楽観的なリアリスト、かつ慎重な大胆派。また、ドラえもんか、のび太か、といえば、ドラえもんタイプです。人に頼られることほど、やりがいを感じるタイプです。

03 朝型ですか? 夜型ですか?

「両時間型」です。夜遅くまで考へごとをし、朝は早くから動き出す。眠りが短いのが癖になっています。

04 お仕事以外で大切にされている時間や趣味はありますか?

子どもや家族と過ごす時間を大切にしています。そして、旅。特に計画せずに泊まりに出かけるのも好きです。

05 最近ハマっていることや小さなこだわりはありますか?

国内外問わず、旅先では必ずその土地のスーパーに立ち寄ります。陳列棚の商品や並び方、その価格に、地元の文化と生活を感じられます。

06 仕事や研究をする上で大切にしている言葉やモットーを教えてください。

“Risk takerであれ”——これは米国で学んだ大切な教え。そしてもうひとつ、“人生いつでもアタックチャンス”。児玉清さん(故人)直筆の色紙を今も大事にしています。

07 最近読んで印象に残った本・映画・音楽などはありますか?

ちょっと前のドラマになりますが、TBSドラマ『最愛』。ストーリー、映像美、演技・台詞、すべてが精緻に設計された芸術作品のようで、いまでも繰り返し観ています。主演の吉高由里子さん、すごいです。

08 日々のリフレッシュ方法やリラックスのコツがあれば教えてください。

頭を空っぽにするにはTikTokがちょうどいい。考えすぎた日は、無心でスワイプして脳を初期化しています。



これまでのご経歴について教えてください。

東京の私立麻布中学・高校では、自由な校風のもと、文系・理系の枠を超えた多様な友人たちと切磋琢磨しながら、人間や社会に対する関心を育みました。その後、慶應義塾大学医学部に進学し、生理学教室にて視覚神経科学の研究に取り組み、特に網膜における情報処理のメカニズムに焦点を当て、博士(医学)を取得しました。研究者としてのキャリアは、米国ハーバード大学医学部(マサチューセッツ総合病院)でのポストドクにおいて大きな転機を迎え、5年間にわたり、世界最高水準の科学研究の現場を体験しました。帰国後は、自然科学研究機構・生理学研究所および本部にて、研究に加えて政策や研究機関運営に関する業務にも従事し、科学行政に関心を深めていきました。また、文部科学省の学術調査官として科研費改革など学術政策の立案や実行にも携わり、現在も技術参与として、科学技術政策に対して継続的に関与しています。



ハーバード大学医学部(マサチューセッツ総合病院)時代(2005年)



副学長就任にあたってのお気持ちをお聞かせください。

このたび副学長として迎えていただき、大変光栄に思っております。私は完全に外部からの着任となりますので、まずはJAISTという大学そのものを深く理解することからスタートしています。その過程で強く感じているのは、JAISTには他の大学にはない、非常にユニークな研究者の方々や独自の発想・研究シーズが数多く存在しているということです。しかし、その多くが互いに十分に共有されておらず、まさに“隠れ

た宝(hidden treasure)”として埋もれてしまっているようにも見受けられます。そうした魅力を学内の方々自身が再発見し、連携を深め、内から外へと自信を持って発信していく——そのプロセスを支える役割を果たしたいと考えています。JAISTが、地域と世界、科学と社会、人と技術をつなぐ知的な共創ハブとして、さらなる飛躍を遂げるために、力になればと思います。



ご専門分野や研究テーマ、その分野に興味を持たれたきっかけを教えてください。

医学部では「病気を治すこと」を学びましたが、私自身が本当に関心を抱いていたのは、「病気そのもの」ではなく、「人そのもの」だったのだと気づいたことが、すべての原点です。以来、神経科学や視覚情報処理の研究をはじめ、科学コミュニケーションや研究開発マネジメントといった分野にも取り組んできましたが、一貫して関心の中心にあったのは、「人はどのように感じ、考え、行動するのか」という問いでした。現在は、そうした知的営みを分野横断的に捉え直し、「人類知性(Human Wisdom)」という概念のもとで新たな学問体系を構想しています。この分野を未来に向けて創設し、広く発信していくことが、今の私の大きな挑戦です。



総合戦略担当の副学長として、特に力を入れて取り組みたいテーマと、大学のこれからの役割について、お聞かせください。また、学内外のステークホルダーに向けて、どのような大学像を発信していきたいとお考えですか？

「人類知性科学」や「AI駆動社会変革」といった、JAISTならではの未来志向のテーマを発信し、大学の研究・教育の新しい柱として育てたいと考えています。世界が急速に変化する中で、大学は単なる知識の蓄積の場ではなく、知と社会を結び、未来を設計するプラットフォームにならなければなら

ない。そのために、世界にひらかれた大学として「世界の中のJAIST」の姿を内外に発信し、研究者・学生・職員、地域や産業界、政府など多様なプレイヤーとともに、新しい「社会の中の大学」のビジョンを共創していきたいと思っています。



学内の教職員・学生・修了生、そして学外の方々へのメッセージをお願いします。

ときには、根拠がなくても自信をもつことが大切だと思います。「自分の限界を自分で決めない」——それが何よりも重要です。研究者・学生・職員一人ひとりが、「自分は、この大学を、そして、日本や世界を変える存在なのだ」、という強い気概を胸に抱いてほしい。困難な課題に直面したときも、「必ず成し遂げる」という意志を持ち続けることが、未来を切り拓く原動力になります。JAISTには、それを支える仲間と環境が整っています。一人ひとりの挑戦が束になって、やがて学外のみなさんとともに社会を変え、世界を動かす力になることを信じています。“Think Big, Think Together!”



大きく考え、共に考えよう。 小泉 周(2025年)

このイラストは、「JAISTの各分野に蓄積された叡智を持ち寄れば、そこから新しい研究やイノベーションが生まれる」という思いを込めて描いたものです。分野の垣根をこえて、みんなで一緒に考えることの大切さを強調したく、「大きく考え、共に考えよう。」というメッセージにしました。

JAIST変人ラジオ

Season2



本学の人気コンテンツ「JAIST変人ラジオ」、好評にお応えし、新たに9名を収録したシーズン2の配信が始まりました。配信した中からおもしろそうな回を2つご紹介します。

プロ棋士七段！ Mr.「心の重力」

飯田 弘之 理事・副学長



越前屋 どういう少年だったんですか。

飯田 山形県の、豪雪地帯で生まれたんです。2歳か3歳くらいで、たまたま将棋を覚えて、それで9歳の時に近くにある天童で子供の将棋大会があって、小学校の部で優勝したんです。それで審判長でお越しになってた大内八段にスカウトされたんです。

越前屋 9歳の時に。それくらい打ち筋が凄かったんですか。

飯田 その時は、私は知らされてなくて、親が丁重にお断りしたんです。まだ9歳で年端もいかない、それを東京に一人で出すわけにはいかないってね。その後ですね、僕が中学校に入っすぐ、中学校の時に優勝したんです。自分としてはプロになりたいなって気持ちになって、単身で東京に出てきたわけです。

越前屋 中学校はどうしたんですか。

飯田 東京の中学校を出てるんですよ。その大内八段に入門させていただいて、奨励会っていうプロの養成機関があって、そこの試験を受けて合格して。

越前屋 昼間、学校へ行って、学校が終わったらそこへ行って。

飯田 そうです。

越前屋 どういう特訓があるんですか。

飯田 自分で修行するしかないんですよ。技を盗むって事ですね。例えば、トップレベルのプレイヤーがやってる試合、対局の記録係をやるんです。対局の横に1日中張り付き

て居るわけです。一緒に考えてるわけですよ。それで自分と同じ考えになる場合もあるし、違う場合もあるわけです。違う場合は、たいてい自分の考えに誤りがあるわけですね。何しろトッププレイヤーがやっているわけですから。

越前屋 それがどう違ったんだということを自分で検証する。先生は中学校で入門して、いつプロになったんですか。

飯田 20歳くらいか21歳くらいですね。大学在学中でした。

越前屋 食べていけるんですか？

飯田 勝てばそれなりの収入が入るし、勝たなければあんまり収入が無い。そういう世界ですよ。

越前屋 それなりに勝ち続けないと駄目なんでしょう？

飯田 勝ち続けるっていうか、勝てるような実力を身に着ける。そのために日々精進するって事になると思います。

越前屋 やっぱ打ち筋をちゃんと見て、自分も打って対戦して、みたい。

飯田 そういう事もあるし、詰将棋みたいな、いわゆる将棋のパズルですね。そういうのを頭の中で解くような練習。実際プロの方々は八百何手詰めとか、そういうのを頭の中で、あーでもない、こーでもないって考えて…。

越前屋 ちょっと失礼な言い方になるかもしれませんが、将棋やる人って先読みばっか

してるんですか？

飯田 先読みだけじゃやっぱ駄目ですよ。その方向性が大事です。

越前屋 流れですね。何手かお互いに打ってきた時の流れがあるんですね。それを読めない方向を間違っって事ですか。

飯田 それもあるし、別の観点から見ると、先入観になって、敗因になることもあるんで…。こだわりが必要な場面もあるけど、持ちすぎても駄目な場合もやっぱりあって、だから真っ白な心で盤の前で座ってないと駄目なんですね。そういう世界です。

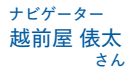
越前屋 過去で勝った時って、真っ白な心で臨んでる時なんですか。

飯田 勝つというか、いい将棋が出来ますね。結局、将棋の場合は目の前にいる人としか戦えないんです。学問の場合は過去の人の戦いなんですよ。例えば「心の重力」っていうのは、ニュートンとの戦いなんですよ…。

《番組の詳細及び続きは本編にてお楽しみください。》

シーズン1も好評配信中！





京大変人講座※の越前屋俵太氏をナビゲーターにお迎えし、正式名称がなんだか妙に長い「北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)」で研究する“変人”(時代を変えていく人)たちの、研究や素の人柄などに触れる、たいへん真面目でライトでアカデミックなラジオ番組です。

京都大学に連綿と受けつがれている「自由の学風」「変人のDNA」を世に広く知ってもらうため、京大の先生を中心に2017年に立ち上げ、越前屋俵太さんの軽妙なナビゲートで人気を集めている公開講座。



創造社会デザイン研究領域 **西本 一志** 教授

2025年1月から6月までのニュース！

JAIST HOT NEWS



<https://www.jaist.ac.jp/whatsnew/info/>

1

令和6年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」を開催



1月30日、令和6年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」をANAクラウンプラザホテル金沢で開催し、インダストリアルアドバイザー等の産業界の有識者51名のご出席をいただきました。

懇談会では、まず飯田理事・副学長から産業界と連携した博士人材の育成について説明があり、続いて永井理事・副学長から本学の研究活動について、内田スタートアップ推進室長からJAISTが主導する北陸地域の大学・高専発スタートアップ創出プ

ラットフォーム—Tech Startup HOKURIKU (TeSH) —について、また中田准教授から令和6年度「Matching HUB」活動報告について、それぞれ説明がありました。

また、意見交換会として、自由に懇談、意見交換を行っていただく機会を設けたことで、インダストリアルアドバイザー間を含め参加者同士の交流や理解が更に深化したとともに、本学の教育・研究並びに産学連携について、出席者から率直な意見や要望を多数いただき、大変有意義な懇談会となりました。

2

金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学 第4回共同シンポジウム with 第16回ライフサイエンス研究交流セミナーを開催



2月3日、金沢大学自然科学系図書館棟1階大会議室において、「金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学 第4回共同シンポジウム with 第16回ライフサイエンス研究交流セミナー」を開催しました。

金沢大学と本学は、平成30年度より融合科学共同専攻における分野融合型研究を推進してきましたが、昨年度より、融合科学共同専攻の活動にとどまらず、両大学間の共同研究の発展と促進を目的に共同シンポジウムを開催しており、今回は4回目の開催となりました。また今回は、金沢大学内で平成27年度から定期的に開催してきたライフサイエンス研究交流セミナーとの合同開催とし、ポスターセッションを開催しました。

「健康長寿」をテーマに開催した今回の共同シンポジウムは、金沢大学和田隆志学長による開会挨拶後、がん治療や老化細胞の解析等に係る先進的な研究開発および両学問での共同研究の成果等について、本学物質

化学フロンティア研究領域栗澤元一教授、金沢大学がん進展制御研究所長鈴木健之教授、本学物質化学フロンティア研究領域都英次郎教授、金沢大学がん進展制御研究所城村由和教授にそれぞれ講演いただき、本学寺野稔学長の挨拶をもって閉会となりました。

また、共同シンポジウム終了後、ライフサイエンス研究交流セミナーとして、両大学の若手研究者・学生によるポスターセッションが開催され、ライフサイエンス分野に係る自身の研究成果の発表を通じ、他研究者との活発な意見交換が行われました。リラックスした空間の中、多くの研究者が積極的に情報交換を行い、異分野の研究者との研究交流も促進される大変有意義な機会となりました。

今後とも本シンポジウムが両大学間の共同研究発展の端緒となるよう推進していきます。

3

2025年度10月から、高度情報専門人材育成コース(JAIST×Humanコース)を開設



本学では、文部科学省の令和6年度大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)の採択を受け、2025年度10月から、高度情報専門人材育成コース(通称、JAIST×Humanコース)を開設します。

本コースの目的は、産業界において要請が高いAIソリューション技術や、AI倫理の知識を有し、AIと人との共生社会における次世代AIの研究開発に取り組み、多様なAIソリューションの創出において網羅的かつ

複合的に課題解決できる、次世代AI社会の創成を担う高度情報専門人材を育成することです。そのため、本コースJAIST×Human(Joint Ai Interaction cyberSecurity×Human)では、4つの分野(AI×インタラクション×サイバーセキュリティ×ヒューマン)を複合的にカバーしたカリキュラムを用意し、次世代AIの研究開発課題に取り組む人材を育成します。



4 TeSH全国プラットフォームコミュニティイベント 開催



3月24日、Tech Startup HOKURIKU (TeSH)*は、東京のTokyo Innovation Base (TIB)にて、「全国プラットフォームコミュニティイベント」を開催しました。本イベントは、北陸地方の大学や高専が首都圏の事業化推進機関や全国プラットフォームとのコミュニティ形成を進めるとともに、事業会社や産業支援機関とのネットワーク構築を目的に開催されました。当日は、首都圏

を中心に北陸3県(富山、石川、福井)からも多くの参加者が集まり、約180名の方々にご参加いただきました。

※TeSH：本学と金沢大学を主幹機関とし、北陸3県の11大学、3高専を共同機関とする北陸地域の大学・高専発スタートアップ創出のためのプラットフォーム



5 令和6年秋の叙勲の伝達式を執り行いました



3月31日、本学東京サテライトにおいて令和6年秋の叙勲の伝達式を執り行いました。伝達式では、瑞宝中綬章を受章されました本学元新素材センター長の辻本和雄(つじもと かずお)名誉教授に寺野学長から勲章

と勲記の伝達が行われ、これまでの功績が称えられました。

※瑞宝章は、公務等に長年にわたり従事し、功績を挙げた方に授与されるものです。



6 UKM Career Fair(マレーシア)に出展しました



5月20日～21日の2日間、マレーシア国民大学(UKM)にて開催された「UKM Career Fair」に、人間情報学研究領域の白井清昭教授と物質化学フロンティア研究領域の長尾祐樹教授が参加し、ブースを出展しました。

本イベントは、現地マレーシアの学生と企業との「ジョブマッチング」を目的とした大規模なキャリアフェアで、ピッチコンテストやキャリアデザイン講演など、多数の関連イベントも同時開催されました。本学は、大学機関として唯一出展し、特に本学が重点的に推進する「JUMPプログラム(JAIST partner University Master connection Program)」への学生リクルートを主な目的として広報活動を行いました。JUMPプログラムは、海外の協定校に在籍する優秀な学生に対し、日本

の大学院での高度な教育・研究機会を提供するもので、学部教育と大学院教育をつなぐ国際的かつ戦略的な人材育成プログラムです。また、協定校との教育・研究面での連携を深化させる役割も担っています。

ブースには2日間で約120名の学生が訪れ、特にマテリアルサイエンス分野を専攻する学生が半数を占めました。情報分野の学生も多く来訪し、研究内容、入試制度、奨学金、日本での生活などについて具体的な質問が多数寄せられ、本学及びJUMPプログラムへの関心の高さがうかがえました。

本学は今後もJUMPプログラムを中心に国際連携を一層強化し、世界中から優秀な学生を受け入れるとともに、グローバルな研究・教育環境のさらなる充実を目指します。

7 エルゼビア会長 Youngsuk 'YS' Chi氏がJAISTを訪問し、寺野学長らと面談—AI時代の大学の役割を語る—



6月12日、科学情報と情報分析を牽引するグローバル企業であるエルゼビアの会長、Youngsuk 'YS' Chi (ヨンスク・チ)氏らが、本学東京サテライトを訪問し、寺野稔学長、上原隆平先端科学技術研究科長、小泉周副学長と面談を行いました。

この訪問では、本学が進める地域社会の

発展を目指した取り組みや、AI(人工知能)を活用した社会変革の取り組み、特に、「4th Generation University(第4世代大学)」という新たな大学像をめぐる、活発な意見交換が行われました。



JAIST PRESS TOPICS

最新の話題の中から、特にご注目いただきたいトピックを厳選してご紹介します。



JAIST BOOST-SPRING SYMPOSIUM「生成AIで世界はこう変わる」を開催



2月14日、新進気鋭のAI研究者で、ベストセラー書籍で「生成AIで世界はこう変わる」の著者である株式会社GenesisAI代表取締役 今井 翔太氏をお迎えし、「生成AIで世界はこう変わる」というテーマでの講演及び「AI研究」をテーマとしたパネルディスカッションを公開にて実施しました。当日は、学内外から60名もの参加者が集まり、活発な質疑応答も行われました。

世界初！120年以上未解決だった難解パズルの証明に成功



コンピューティング科学研究領域の上原隆平教授、鎌田斗南助教は、マサチューセッツ工科大学のErik D. Demaine教授と共に、裁ち合わせパズルと呼ばれる古典パズルの解の最適性を世界で初めて証明し、3月10日、本学東京サテライトにて記者発表を行いました。



この度の発表は、記者発表を起点に多くの方にご注目いただき、各種メディア等に取り上げていただきました。理論研究にこのような注目が集まる機会は珍しく、大変ありがたいことだなと感じています。この機会を通じて、理論を研究することの可能性や面白さを感じていただける方が増えれば存外の喜びです。

小中学生の「英語コミュニケーション力」をAIで“見える化”に成功



人間情報学研究領域の岡田将吾教授、マワリム ケンディ オリビア助教の研究グループは、英語を母国語としない小中学生の英語コミュニケーションの訓練システムの開発を目指し、対話中の音声・表情・言語情報を用いて、多様な英語コミュニケーションスキルレベルを推定する機械学習モデルを開発し、6月2日、文部科学省記者会見室にて記者発表を行いました。

発表当日は多くの記者や関係者にご参加いただき、熱心に耳を傾けていただきました。質疑応答では想定以上に具体的な質問が寄せられ、社会的関心の高さを実感しました。限られた時間の中で自分たちの研究・開発の意義を十分に伝えきれたかどうかには課題が残るものの、全体としては非常に前向きな雰囲気でした。





Winner introduction

Award Recipient Introduction

2025.1.19

Generative AI and Knowledge Graphs (GenAIK-2025)

Best Paper Award

人間情報学研究領域
白井研究室

博士後期課程 2年 DONG, Na



2025.2.15

PLATEAU AWARD 2024

PLATEAUユース賞

創造社会デザイン研究領域
宮田研究室
ミヤタゲームズ メンバー

博士前期課程 2年

山口 修平、井上 悠香、
廣川 七海、佐々木 嵩也



2025.3.13

触媒コンペティション 『Citizen Innovators: The Catalysts Design Arena』

同率優勝

トランスフォーマティブ知識経営研究領域
吉岡研究室

博士前期課程 1年 酒井 龍之介

次世代デジタル社会基盤研究領域
青木研究室

博士後期課程 3年 本田 光希



3位入賞(チームメンバー)

次世代デジタル社会基盤研究領域

博士前期課程 1年 谷口 稜

次世代デジタル社会基盤研究領域
リム研究室

博士前期課程 1年 埜間 寛哉



2025.3.13

みんなの夢AWARD15

準グランプリ

トランスフォーマティブ知識経営研究領域
白肌研究室

博士後期課程 3年 古新 舜



2025.3.21

電子情報通信学会・情報処理学会・日本音響学会・ 計測自動制御学会 各北陸支部

電子情報通信学会北陸支部 優秀学生賞

人間情報学研究領域 鵜木研究室

博士前期課程 2年 小倉 稜也

電子情報通信学会北陸支部 学生優秀論文発表賞

次世代デジタル社会基盤研究領域 井口研究室

博士前期課程 2年 小俣 直史

次世代デジタル社会基盤研究領域 リム研究室

博士前期課程 2年 TU, Yang

情報処理学会北陸支部 優秀学生賞

人間情報学研究領域 池田心研究室

博士前期課程 2年 西川 就斗

日本音響学会北陸支部 優秀学生賞

人間情報学研究領域 鵜木研究室

博士前期課程 2年 房野 早希、村上 正悟



計測自動制御学会北陸支部 優秀学生賞

人間情報学研究領域 浅野研究室

博士前期課程 2年 小森 幹斗

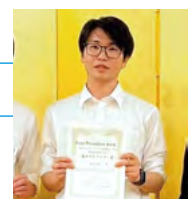
2025.6.18

プラスチック成形加工学会 第36回年次大会

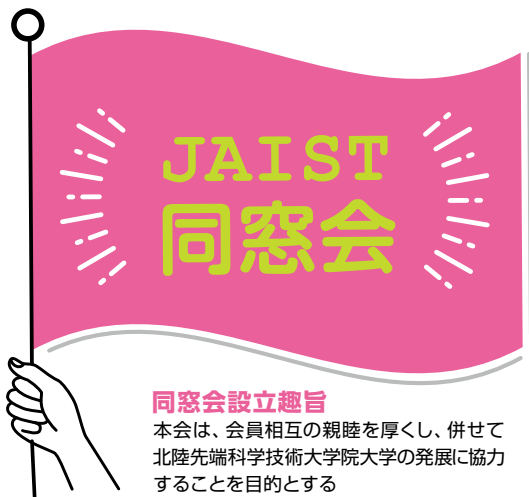
優秀学生ポスター賞

物質化学フロンティア研究領域
山口政之研究室

博士後期課程 2年 福田 雄太



※身分・学年は受賞当時のものです。



同窓会設立趣旨

本会は、会員相互の親睦を厚くし、併せて北陸先端科学技術大学院大学の発展に協力することを目的とする



学生・教職員による
「JAISTフォトコンテスト2021」入賞作品より

主な活動

- ▶ **同窓会総会（東京サテライト）**
・活躍する修了生の講演 ・懇親会
- ▶ **修了生名簿の管理**
・同窓会Webにて随時入力更新可能
- ▶ **アカデミックガウンの貸し出し**
・同窓会員は無料
- ▶ **研究室同窓会の支援**
・名札の貸し出しなど

同窓会への参加

- ▶ **同窓会Webに登録**
<https://www.alumni.jaist.ac.jp/>
アカウントやパスワードが分からない場合は、alumni@ml.jaist.ac.jp まで。
- ▶ **Facebookページ**
<https://www.facebook.com/JAIST同窓会-28526107826329/>
または <http://bit.ly/JAIST-alumni>



2025
3/30

JAIST 同窓会 総会・交流会

2025年3月30日、本学東京サテライトにおいて、令和6年度JAIST同窓会総会・講演会が開催されました。

橋本昌嗣同窓会長の開会挨拶で幕を開け、この一年の活動を振り返るとともに、修了生の活躍ぶりが紹介されました。

続いて、寺野学長、永井理事（研究振興、社会連携担当）・副学長、飯田理事（学生、教育連携担当）・副学長が登壇し、本学の近況紹介を行いました。Matching HUBをはじめとする産学官金連携活動、研究力強化に向けた学内組織改革、学生支援制度の運用状況等の説明があり、また修了生による日頃の支援に

対し感謝の意が述べられました。

引き続き行われた講演会では、3名の修了生から、在学当時の思い出や現在の仕事に生きている学びを交えつつ各テーマについて講演があり、会場は大いに盛り上がりしました。

当日は、オンライン参加も含め、修了生と本学教職員合わせて約70名の方が参加し、世代や専門分野を超えて親睦を深めました。



※文中の組織名・所属・役職は当時のものです。

修了生による講演

- 1 **「変革のときは全て知識科学 ～コンサルティングの現場より～」**
大崎真奈美 氏（日本能率協会コンサルティング）
（2005年3月 知識科学研究科 博士前期課程修了、近藤研究室）
- 2 **「営農型太陽光発電とスマート農業の取り組み」**
後藤繁生 氏（カネヘイファーム／カネヘイ後藤製茶工場）
（1997年3月 情報科学研究科 博士前期課程修了、平石研究室）
- 3 **「難治性疾患治療を変える薬効増幅型緑茶カテキン・ナノ粒子の開発」**
栗澤元一 氏（北陸先端科学技術大学院大学）
（1998年3月 材料科学研究科 博士後期課程修了、由井研究室）



VOICE OF ALUMNI

活躍する修了生

現 在、NTT研究所において光伝送、量子通信、量子コンピュータの研究プロジェクトを牽引しています。大学では授業や研究指導にも携わり、プライベートではダンススポーツの日本代表として世界選手権にも出場しています。加えて、母の実家の小規模企業を事業承継し、地方での経営から欧米大学との共同研究、国際標準化、企業間連携まで活動を広げています。国の助成事業や委託研究にも責任者として参画しています。周囲からは「いつ寝ているのか」と不思議がられますが、支えてくれる仲間やチームのおかげです。JAISTでの2年間は、学生として自由に研究に没頭できた貴重な時間でした。一人一台のSUNワークステーションを与えられ、大量のプログラムを書いた経験は、活動資金に頼らず新しいコンセプトのプロトタイプを自ら実装し、大規模プロジェクトへ発展させる力となりました。

当時、AIはモデル化や計算量の壁に直面していましたが、研究室で著名な書籍を輪読し理解を深めた経験は、AI時代を迎えた現在でも大きな財産です。修士2年生の冬、雪が積もった芝生に大の字になって星空を見上げ、「小さな自分だからこそ思い切っているいろいろな挑戦しよう」と心に決めました。当時はインターネット黎明期であり、通信とAIの世界に大きな未来を感じた瞬間でした。

JAISTには、世界に通用する専門性を高められる環境があります。ここから多くの方が羽ばたき、活躍されることを願っています。最後に、私の思いつきや失敗にも付き合い、日々支えてくれている家族や仲間に深く感謝します。

高杉 耕一 TAKASUGI KOICHI

情報科学研究科
博士前期課程1997年修了 博士(工学)

- ・ NTT株式会社 主席研究員
- ・ 未来ねっと研究所 研究部長
- ・ デバイスイノベーションセンタ 研究グループリーダー
- ・ 大阪大学 情報科学研究科 招へい教授
- ・ 社団法人ダンススポーツ連盟 準強化選手
- ・ 株式会社亀屋 代表
- ・ 超高速フォトニックネットワーク開発協議会 標準化部会 部会長



VOICE
OF
ALUMNI 1

私 は2010年にJAISTのマテリアルサイエンス研究科を修了しました。現在はマレーシア国民大学(UKM)にて、Centre for Research and Instrumentation Managementの副所長、そしてInstitute of Microengineering and Nanoelectronicsの教授を務めています。現在、大学の中核における職務として、大学の研究戦略や方向性をデータに基づいて策定し、UKMを世界水準の大学へと発展させる役割を担っています。また、マレーシア高等教育省の中央

委員会メンバーとして、国の研究評価ツールや大学の業績評価、学術出版方針、研究助成の管理指針づくりにも携わっています。JAISTで得た確かな基礎力と学際的なカリキュラム、熱心な先生方、そして最先端の研究環境は、変化の激しい高等教育や研究の世界で柔軟に対応し続けるため

の礎となりました。こうした経験は、私がナノエレクトロニクス分野で早期に教授職に就く大きな後押しにもなりました。日本で過ごした12年間は、異文化理解を深める貴重な時間であり、規律、協働、全人的な教育といった日本の「おもてなし」の精神を、教育や研究指導に取り入れ、それをマレーシアの高等教育システムにも活かす大きなきっかけとなりました。

これからもマレーシアと日本の研究交流や文化交流を積極的に推進していきたいと考えています。特に、「JUMP(JAIST Partner University Master Connection Program)」をはじめとするJAISTの取り組みが確かな成果を上げられるよう力を注いでいます。JAISTがこれからも、世界規模で社会に良い影響を与えるリーダーを輩出し続けることを、心から願っています。

※英文による寄稿を広報室で翻訳

モハメド モハマド アンブリ

MOHAMED, Mohd Ambri

マテリアルサイエンス研究科
博士前期課程2007年修了
博士後期課程2010年修了

- ・ Professor, Institute of Microengineering and Nanoelectronics
- ・ Deputy of Director, Centre for Research and Instrumentation Management
- ・ The National University of Malaysia (UKM)



VOICE
OF
ALUMNI 2

JAIST基金

JAIST基金へのご協力、心より御礼申し上げます。

本学は、2010年4月に、本学における教育研究を充実・発展させることを目的とした「JAIST基金」を創設しております。

JAIST基金には、教育研究及び学生の修学への支援を一層充実させるため、「教育研究支援基金」と「修学支援基金」という2つの種別の基金を設けており、寄附を受け入れております。

「教育研究支援基金」は、教育研究推進、社会貢献、国際交流等の事業に、「修学支援基金」は、経済的理由により修学が困難な学生を支援する事業に活用させていただきます。



基金TOPICS

これまで、銀行振込、現金による方法のみご寄附が可能でしたが、ご寄附の方法を拡充し、新たにインターネット決済(クレジットカード、コンビニ、Pay-easy)によりご支援いただけるようになりました。

お問い合わせ先:

北陸先端科学技術大学院大学 基金事務室

TEL:0761-51-1059 E-mail:kikin@ml.jaist.ac.jp



教員インタビュー「この人に聞く」で
最先端の研究にフォーカスします!



ウェブサイト「この人に聞く」では、様々な分野の教員にインタビューを行い、最先端の研究内容や学生に向けたメッセージを、写真や動画とともに紹介しています。



「インタビュー特設サイト」
JAISTとあなたの未来を創造(想像)
していくメディア



研究室の魅力と在学生の
ホッペを綴ったサイトを
公開中です。



2026年4月に研究領域の名称等の一部を変更します。



北陸先端科学技術大学院大学広報誌

JAIST NOW No.23

広報室から

これまで年1回お届けしていた広報誌を、今年からは年2回の定期刊行とし、誌面の構成も新しくしました。より多くの方に親しんでいただける誌面を目指してまいりますので、今後とも温かいご支援をいただければ幸いです。

発行

北陸先端科学技術大学院大学 広報室

〒923-1292 石川県能美市旭台1-1

TEL 0761-51-1032 E-mail kouhou@ml.jaist.ac.jp

2025年9月発行



JAIST

